

よみがえ 天守閣が甦るまで

～図書館所蔵写真から～

小田原城天守閣は耐震補強も含めた大改修を終えて、平成28年(2016)5月にリニューアルオープンしました。生まれ変わった天守閣の新展示は好評で、入館者数も増えております。また、熊本地震において熊本城が被災すると、オープン時の入館料を寄付したことで話題となりました。

江戸時代、寛永地震・元禄地震・天明地震と度重なる大地震で被害を受けるたびに小田原城の天守閣は再建・修築され、そびえ続けてきました。その天守閣も明治という新しい時代となって、維持経費を賄えないという理由で売りに出され、城址の所有は陸軍省、小田原町、宮内省と変遷をたどることになります。そして大正12年(1923)の関東地震(関東大震災)の折、天守台ほか本丸周りの石垣が崩落し、長らくそのままに放置されました。

戦前から天守閣再興の気運はありましたが、本格化するのには市制10周年記念として昭和25年(1950)に「こども文化博覧会」を開催することが決定してからです。会場となる城址に倒壊した石垣石がそのままではと、町内会で自発的に始めた募金(天守閣石一積運動)がきっかけとなり、天守台石垣は小田原市の失業対策事業によって再建されます。こども博後は遊園地となり、天守台には観覧車が設けられ、こどもたちの夢をのせてぐるぐる回りはじめました。



昭和25年(1950)天守台石垣の復元

天守閣再興を観光資源として注目したのは商工会議所でした。昭和31年(1956)に小田原城天守閣再興促進会を発足させ、それをきっかけに小田原市が市制20周年の記念事業として検討に入ってから再興は具体化していきます。復興費用の捻出、どのような天守閣とするか、難題が山積みでした。6万枚を超える天守閣の瓦の1/3は、市民からの寄付金240万円余で賄われました。いざ工事がはじまると

現場から古い石垣が出現し工期が延びるなど、さまざまな課題を克服して、同35年(1960)5月天守閣は再建されます。上棟式から完成式まで、まる3か月の突貫工事でした。

5月25日の完成式典では、この日のために作られた「小田原城天守閣讃歌」が小田原高校・小田原城内高校の生徒によって披露されました。同月29日には第1回小田原お城まつりが開かれ、現在の小田原北条五代祭りの前身ともなる時代風俗行列がはじまることとなります。



昭和34年(1959)瓦一枚運動本丸跡受付

天守閣の設計図 ～収蔵資料「中野敬次郎文庫」の紹介～

戦中・戦後、小田原の郷土史家であり小田原の文化行政に尽力された中野敬次郎氏（1987年没）の蔵書・原稿2200点余、および収集史料70点余などが市立図書館に寄贈され、収蔵貴重資料として公開されています。

三重県伊勢市生まれの中野氏は大正15年(1926)から旧制小田原中学（のちの小田原高等学校）で歴史の教鞭を執るかたわら、大森氏の研究をはじめ、地域の歴史について講演・執筆を重ねます（インタビュー「中野敬次郎氏に聞く」『おだわら－歴史と文化－』創刊号、1987年）。昭和28年(1953)に小田原市教育委員会の社会教育課に転職します。すでに小田原の歴史・文化について論考や著作のあった中野氏を、当時の鈴木十郎市長が文化行政の実務担当としてヘッドハンティングしたと言われています。社会教育課長として、郷土文化館・小田原城天守閣・尊徳記念館の建設や、石垣山の国史跡指定などに取り組み実現させました（『小田原史談』129号〈故中野敬次郎先生追討号〉、1987年）。さらに、退職後も小田原市文化団体連絡協議会会長、小田原史談会会長などを歴任しました。

郷土史におけるおもな著作は、『小田原市史料・歴史編』（小田原市、1966年）、『小田原近代百年史』（形成社、1967年、のち八小堂書店より復刻）、『近世小田原ものがたり』（名著出版、1978年）などがあり、新聞や雑誌へ掲載した論考は数知れません。文化財保護および地域文化の振興に寄与したということで、亡くなる前年、昭和61年(1986)には神奈川文化賞を受賞しました。

中野氏が収集された史料のなかには、『小田原市史』の近世史料編に収録された古文書・写本が7点、そのほか絵図類も含まれております。なかでも、大久保家中の出で、のち足柄下郡長を務める関重磨しげまろが著した「六十夢路」は、京都御親兵・箱根戊辰戦争むそしゆめじなど、幕末維新の動乱期を駆け抜けた関の直筆回顧録として興味深い内容が記載されています。

また、社会教育課勤務中に担当した行政資料も、それぞれまとめられて残されています。たとえば、小田原市制20周年記念事業として昭和35年(1960)に復興された小田原城天守閣に関しても、歴史考証や復興趣意書の起草をはじめ、関係各省庁への陳情など準備段階より関わっており、(株)建築



天守閣復元設計図第1回案(南側側面)



天守閣復元設計図第2案(東側側面)

美術研究所作成の第1次設計図面、改定設計図面など実物を見ることができます。

くわしくは、文庫目録が市立図書館地域資料室に配架されていますので、ご利用ください。

【小田原市立図書館地域資料室 利用案内】

小田原市立図書館(星崎記念館)2階。
休館日は毎月第4月曜(館内整理日)、年末年始、特別整理期間。
資料の出納・ご相談は9時～12時、13時～16時45分に承ります。
室内の資料は原則貸し出しいたしません。
*貴重資料の閲覧：事前の閲覧申請・ご予約をお願いいたします。

【編集後記】

地域資料室にて、写真展示「天守閣が甦るまで」を始めております。お越しの際には、ぜひご覧ください。